

I プログラム

福島再生・未来志向シンポジウム ～いっしょに考える「福島、その先の環境へ。」～

プログラム

1. 開会挨拶

【環境省 神谷昇環境大臣政務官】

2. 県知事ビデオメッセージ

【福島県 内堀雅雄福島県知事】

3. 基調講演

地球温暖化の現状とわたしたちの課題

【亀山 康子（国立環境研究所 社会環境システム研究センター長）】

4. 基調報告

①環境省 これまでの取組

【和田 紘希（環境省 環境再生・資源循環局特定廃棄物対策担当参事官室 参事官補佐）】

②国立環境研究所福島支部 これまでの取組

【林 誠二（国立環境研究所福島支部 研究グループ長）】

5. パネルディスカッション

「復興と共に進める地球温暖化対策」

モデレータ：大原利真（国立環境研究所福島支部 フェロー）

パネリスト：深山陽子（国立大学法人 福島大学 食農学類准教授）

佐藤順英（（株）エイブル 代表取締役社長）

伊澤史朗（双葉町長）

牧ノ原沙友里（（一社）ならはみらい 事務局）

亀山康子（国立環境研究所 社会環境システム研究センター長）

6. これからの取組

則久雅司（環境省環境再生・資源循環局参事官 /福島再生・未来志向プロジェクトチーム長）

CANDLE JUNE

7. 閉会

閉会挨拶

【国立環境研究所 森口祐一理事】

Ⅱ 登壇者プロフィール



亀山 康子（かめやま やすこ）

国立研究開発法人国立環境研究所 社会環境システム研究センター長

1990 年東京大学教養学部卒。1992 年環境庁国立環境研究所（当時）入所。専門分野は国際関係論。気候変動に関する国際交渉を主要な研究テーマとし、京都議定書交渉時（1996-97 年）は政府代表団の一員として交渉に参加した。主な著書に“*Climate Change Policy in Japan: From the 1980s to 2015*”（Routledge, 2017 年）や『気候変動と国際協調—京都議定書と多国間協定の行方』（高村ゆかり氏と共編、慈学社、2011 年）がある。



林 誠二（はやし せいじ）

国立研究開発法人国立環境研究所 福島支部 研究グループ長

1996 年、東北大学工学部土木工学専攻、博士（工学）取得。水環境工学、流域環境管理を専門とする。研究テーマは多媒体環境における放射性セシウムの動態解明と将来予測。国立環境研究所災害環境研究 PG 環境回復研究プログラムリーダーとして研究を主導している。野外調査、室内実験、数値シミュレーションなどの手法を用い、蓄積されつつある放射性物質の環境動態に係る知見を、どのように地域住民のニーズを踏まえた地域復興や被ばく軽減等対策に結び付けていくか、に取り組んでいる。



大原 利眞（おおはら としまさ）

国立研究開発法人国立環境研究所 福島支部フェロー

1982 年北海道大学大学院工学研究科博士課程修了（工学博士）。静岡大学工学部教授などを経て、2004 年から国立環境研究所の地域環境研究センター長など。東日本大震災後は災害環境研究と福島支部の立上げに従事し、2016 年に福島支部に異動。大気環境学会学術賞ほか受賞。「原発事故環境汚染」ほか著書・論文多数。（前）大気環境学会会長、中環審・微小粒子状物質等専門委員会委員長ほか。



伊澤史朗（いざわ しろう）

双葉町長

1980 年麻布獣医科大学獣医学部卒。1989 年イザワ動物病院開院。2002 年に双葉町立双葉南小学校 PTA 会長、2003 年に福島県立双葉高等学校 PTA 会長を歴任。2003 年より双葉町議会議員を務め、2011 年より双葉町議会副議長。2013 年より現職。2019 年より双葉地方町村会長を務めている。

	深山 陽子（みやま ようこ） 国立大学法人 福島大学 食農学類准教授 1993 年千葉大学園芸学部園芸学研究科修了後、神奈川県において主として施設園芸関連の試験研究開発に携わる。2018 年福島大学農学系教育研究組織設置準備室勤務、2019 年福島大学農学群食農学類の開設とともに現職に着任。博士（農学）九州大学。
	牧ノ原 沙友里（まきのほら さゆり） 一般社団法人 ならはみらい 事務局 楢葉町出身。2008 年に歌手を目指して上京、同時にプロの和太鼓奏者として活動、2011 年に東京で震災を経験、2016 年に東京から福島県楢葉町へ戻る。避難指示解除前に楢葉町で行われたイベントで、町民が中心となってブース出展しているのを見て、町民が主体的に動いてる姿に惹かれたことがきっかけとなり、2016 年に（一社）ならはみらいに入社。現在、5 年目。管理本部に所属。主に総務経理の他、各町村のまちづくり会社等の連携や事業補完、課題共有を目的とした組織、ふたばエイト（双葉郡まちづくり協議会）の事務局やならはみらいの広報を担当。プライベートでは「ならは天神太鼓うしお会」に所属。和太鼓の指導者として活動。
	佐藤 順英（さとう ゆきひで） 株式会社エイブル 代表取締役社長 1978 年 3 月 日本大学 理工学部 電気工学科卒 4 月 TPP(東電子会社)入社 1992 年 4 月 株式会社エイブルを福島県富岡町に創立(1995 年本社を大熊に移動) 2011 年より 東日本大震災において福島第一原子力発電所の復旧作業に従事現在に至る
	CANDLE JUNE（きゃんどる じゅん） アーティスト / フィールドデザイン / ディレクター 1994 年、キャンドル制作を始める。「灯す場所」にこだわり様々なフィールドで空間演出を行い、キャンドルデコレーションというジャンルを確立。2001 年、原爆の残り火とされる「平和の火」を広島で灯してからは「Candle Odyssey」と称し、悲しみの地を巡る旅を続ける。2011 年、東日本大震災を受けて「一般社団法人 LOVE FOR NIPPON」を発足し支援活動始める。月命日の 11 日には、毎月福島各地でキャンドルナイトを行い、3 月 11 日には「SONG OF THE EARTH 311 FUKUSHIMA」を開催。「悲しみから喜びへ」をテーマに復興支援活動を続ける。